

圧巻の西海讃歌

12月4日(木)、百日祭を行いました。まず、第3学年を代表して、濱崎いほりさんがことばを述べ、理想の学校とは何か、ありたい自分とは何かを対話と挑戦で追究しながら過ごしたこれまでの歩みを振り返るとともに、これからの百日間を新たなステージの始まりと捉え、過去の自分、現在の自分、そして、希望である未来の自分を「ありたい自分」として見つめながら、仲間と共に一日一日を大切に過ごしていきたいという決意を述べました。

その後、披露した第3学年による「西海讃歌」の学年合唱は、力強く豊かな響きで会場の人々の心をふるわせました。「空いっぱい空があるように海いっぱい海があるように 人よ 心いっぱいに美しい心を持って」という歌詞に歌われている長崎の美しい景色が目の前に広がるような合唱で、歌っている3年生と共に、会場にいる私たち皆が、その美しく雄大な自然に抱かれているように感じ、胸がいっぱいになりました。指揮を務めた小野颯太さん、伴奏の濱崎さんのリーダーシップのもと、76回生全員で練習を重ねてきた成果を存分に発揮した名演奏でした。

会場で参観してくれた附属小学校第6学年の児童や先生方からも「感動しました。」などのことばをいただきました。

3年生は、この百日祭を節目として、進路決定に向けた決意を新たにしたことでしょう。1、2年生にとっては、次代を担う者としての立場や役割を自覚し、背筋を伸ばす機会となりました。

3年生の保護者の皆様にも多数御来場いただき、ありがとうございました。



美術部が制作した黒板アート



3年生の学年合唱

おめでとう

部活動の成績や、学校を通して出品した作品等に係る表彰について御紹介します。

長崎市中学校新人大会卓球競技(11/30、長崎県立総合体育館サブアリーナ)

〈男子団体〉第3位 渡邊真博 白濱颯太 中村道治 原直樹 井手陽太 渡辺圭悟
吉本健真 森陽介

〈女子団体〉第3位 野村莉理香 岩橋咲季 宮本沙乙里 山崎和夏 宮田尋未 藤原あさひ

長崎県中学校テニス競技新人大会(11/30、ベネックス総合運動公園かきどまり庭球場)

〈女子団体〉優 勝 楊井実和 吉見真汎 丸屋柚乃 水崎櫻子 沼嶋愛華音 稲津陽向
矢野優里

第75回全国小・中学校作文コンクール都道府県審査(11/10、読賣新聞社)

優秀賞 小林拓真 江頭未紗

佳作 小嶺彩 三浦もか 藤本天 松尾里央

読書感想文コンクール長崎市審査(9/24、長崎市中学校図書館部会・SLA・毎日新聞社)

〈課題図書の一部〉優秀賞 浜田栞名 塚本実花

〈自由図書の一部〉優秀賞 武田羽叶

JA共済小・中学生書道コンクール JA長崎せいひ(12/3、全国共済農業協同組合連合会)

〈半紙の一部〉佳作 福田陽都

〈条幅の一部〉銅 賞 西村宥香 塚本実花 渡邊結奈

佳作 吉見真汎 武田羽叶

長崎市民美術展(11/30、第74回長崎市民美術展実行委員会)

〈書写の一部〉市長 賞 渡邊結奈 市議会 議長 賞 筒井美羽

書作家協会 賞 武田羽叶 奨励 賞 上田菜緒 原胡桃 黒濱菜々子

国際文化協会 賞 青木璃乃 江川心春 古賀柚羽 前沢佳穂

(裏面に続きます)

776号～778号記念特別企画 その2

今号777号では77回生の作文を掲載いたします。2年生の「Now」をどうぞお読みください。

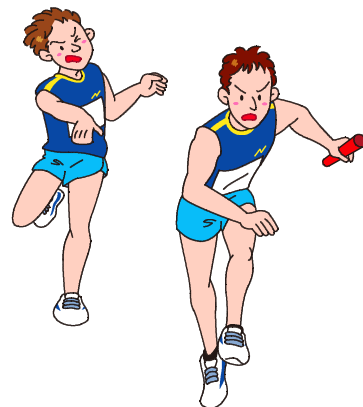
「これまでとこれからを繋ぐ」

附中に入学して2年。長いと思っていた中学校生活の半分が過ぎた。

5月、私たちは先輩として初めての「春」を迎えた。昨年の私は、先輩方が創り上げる「春」にただ参加しているだけだった。しかし、今年はまだ後輩であり先輩である。自分たちの頭で考え、自分たちの手で形にすることが求められる。更には、後輩を牽引する立場になったのだ。準備を進める中で思うように進まないこともあった。それでも、仲間と声をかけ合い、自分たちが全力を尽くして、最高の「春」を作り上げることができた。

「春」が終わったあと、全校で円陣を組み歌った校歌は忘れられない思い出だ。自分の力で創ったからこそその達成感や喜びを感じることができた。

ところで、「責任を負う」ということは、とても重く、困難を伴うものだ。しかし、誰かのために動くことで、私たち自身も確実に成長していく。今年の「春」で感じたのは、「附中の行事は先輩から後輩へ受け継がれる想いの積み重ねでできているということだ。私たちもその流れの一部となり、受け継いだものを未来へとつないでいく大切な役割を担っている。だからこそ、私たち77回生は「背骨の学年」という目標を掲げている。背骨は体を支え、動かし、神経を守る重要な役割を持つ。それと同じように、学校の「顔」である先輩方を支え、その思いを学校の隅々まで届ける。私たち77回生はそんな学年を目指している。表からは見えなくとも、附中にとってなくてはならない、一そんな存在になれるよう、2年生としての残された日々を大切に過ごしていきたい。



2年2組 田上 結衣さん